

経鼻内視鏡についての説明

経鼻内視鏡とは？

内視鏡と呼ばれる細い管を鼻から挿入し、上部消化管(食道・胃・十二指腸)を観察する検査です。

目的

この検査は、腹痛などの症状があった場合や、健康診断などで異常を指摘された場合など、上部消化管(食道・胃・十二指腸)の病気が疑われたとき、その原因を調べるために行います。

検査前

検査の前日の夜9時以降は摂食せず、当日の朝食もとらずに来院していただきます。(飲水は可能です)
検査当日は、この同意書にサインしたものをご持参ください。

手順

検査室入室後、検査前に胃の泡をとる薬を飲み、その後、鼻腔に血管収縮剤・局所麻酔剤を注入し、その後麻酔薬を塗った細い管を鼻腔に入れ奥まで麻酔をかけほとんど感覚がなくなるようにします。
検査ベッドに横になり、内視鏡を鼻から挿入していきます。検査時間は10～20分程度ですが、詳しい検査のために時間がかかることもあります。検査中に病変が見つかったり、ピロリ菌の検査が必要だったりした場合は、組織の一部をとって検査にまわします。

注意事項

心臓や腎臓、肝臓に病気がある方、緑内障、前立腺肥大のある方、血液が固まりにくくなる薬を飲んでいる方は検査前にお申し出ください。
鼻腔が狭い方や鼻炎のある方は痛みや出血を伴うことがあります。その場合は、経鼻的な内視鏡の挿入を中止します。経口的挿入で行うかは、そのときご相談します。(管が細いので従来の胃カメラよりも楽です)

上部内視鏡検査(従来の胃カメラ検査)の偶発症(合併症)

1993年から1997年の全国集計では、上部内視鏡検査主体での発症頻度は0.007%で、死亡率は0.00045%でした。合併症の内容は、出血、穿孔、縦隔炎、ショックが主なものでした。出血、穿孔、などの場合は緊急手術を要することがあります。

経鼻内視鏡について必要な事項を説明いたしました。

平成 年 月 日

医師署名

ふじクリニック 院長 柿沼 徹

経鼻内視鏡についての同意書

このたび私は、経鼻内視鏡についての内容説明を受け、かつそれに対する十分な質問の機会が与えられ理解しました。また、実施中に緊急の処置をする必要性が生じた場合は、適宜処置されることについても理解しました。

平成 年 月 日

患者署名

保護者または親権者・親族等署名

(続柄)

(患者が未成年または意思決定できない場合は必ず署名してください)